

私はアシュリー

猛烈な勢いで老化していく難病「プロジェリア」を患っていたカナダの少女、アシュリー・ヘギさんが、4月21日、17歳で亡くなりました。

テレビのドキュメンタリー番組『サイエンスミステリー』で何度も取り上げられましたので、「ああ、あの少女か」と思い出された方も多いと思います。

私もこの番組を通して初めて「プロジェリア」という病気のことや彼女の存在を知りました。

この病気は、遺伝子の異常により一般の人の10倍近いスピードで年老いていくもので、患者数は世界で30人程度、平均寿命は13歳、800万人に1人といわれる難病で、現在も治療法が見つかっていないそうです。

アシュリーを番組で最後に見たのは、3年前で、彼女が14歳の時でした。

すでに平均寿命を超え、肉体年齢は90歳近くになっており、いつ死んでもおかしくないという年齢に達していました。

ところが、彼女の生活から悲壮感や暗さといったものは全く感じられず、ひたすら前向きに、明るく、しかも周りの人々への優しさと思いやりを忘れず、懸命に生きる彼女の姿がテレビ画面を通して映し出されていました。

番組の中で彼女は次のように語っていました。

…プロジェリアじゃなければいいのになんて思わない。私は私という人間であることが幸せ…
…もし生まれ変わったら、また自分に生まれ変わりたい…

このような言葉が、わずか14歳の少女の口から発せられたことに私は強い衝撃を受けました。

これは、今の自分の人生を100パーセント肯定しなければ出てこない言葉です。

逆に言えば、

「何でこんな病気になったんだ！」

「何でこんな苦勞をせないかんのだ！」

と、自分の人生に不平不満を持っていたのでは、こういう言葉は出てきません。

つまり、どんな境遇に立たされようとも、「これが私の人生です」と、心の底から頷いて、それをしっかりと引き受けて生きていける身になった時、初めて「私は、私という人間であることが幸せです」という言葉が出てくるのです。

また彼女はこうも言っています。

…私はいつも前向きでいたい。人はこうなのに、自分はこうだとか、誰かと自分を比べて、そう
こう考えたりしない…

他と比べない生き方を「絶対的人生」と言いますが、この生き方ほど、私たちに深い安らぎを与え

てくれるものはありません。

これは、彼女のように、「自らの人生を引き受けて生きていける身」になって、初めて生まれてくる生き方です。

ところが、私たちの人生はどうかと言いますと、「勝ち組・負け組」という言葉に代表されるように、絶えず周りと比べては幸・不幸を感じていくという相対的人生を送っています。

このような人生からは真の安らぎは生まれません。

また彼女には当時、ジョン・タケット君という同じ病気を抱える大切なボーイフレンドがいました。アメリカとカナダ。遠く離れて暮らす二人でしたが、休みを利用して楽しい時間を過ごしたこともありました。

互いに支えあい、励ましあい、深い絆で結ばれた二人でしたが、そのジョン君が16歳の誕生日を迎えてまもなくして亡くなりました。

アシュリーはその深い悲しみの中、次のように語っています。

…ジョンがなくなった時は、ものすごく悲しかった。

でもジョンは天国という素晴らしい場所に行ったんだから悲しんじやいけない。

私たちはまたすぐ会えるんだって思ったの…

まさにこれは、お浄土で再び会える（倶会一処）と説くお念仏の教えと同じだと思います。

「先立つ者も残された者も、いずれまた会える世界がある」……このことが私たちの人生に計り知れない安心感を与えてくれるのです。

その後アシュリーは、「定められた時間が来るまで健やかに生きていきたい」と語りながら、プロジェリア患者としては前例のない17歳という長寿を記録して、その人生の幕を閉じました。

老・病・死という人間の根源の苦悩を、思春期に迎えなければならなくなった少女が、その苦悩を乗り越えて、かけがえのない「いのち」を精一杯輝かせながら生き抜いてこられたことを思う時、ただただ深い感動を覚えずにはおれません。その見事な生き方から、多くのことを教えられました。

最後に、アシュリーとジョン君の言葉をいくつか紹介したいと思います。

…もしかしたら神様は、私はプロジェリアだけどうして生きているということを、人に見せなさいって、その機会をお与えになったのかもしれないって思うの。

この病気を通して人を助けなさいということかもしれないって思うの…

…何故ここにいるのか、それはわからない。でも私たちがここにいるのには何か目的があるはずだと思ふの…

…ひどいことを言われて相手に怒りを感じた時は、その人に怒りを返さないように自分に待ったをかけるの。そこにいたらきっと、言いかえしてしまうから

「ちょっと失礼」って別の場所に行って一拍置くようにしているの。

一拍置いて今起きたことを考えてみると憤りが相手にそう言わせたんだって ことが見えてきて
自分の怒りや悲しみが消えていくの…

…ハッピーでいられる自分が好き。悪口を言われた時でも、誰かが私に怒った時でも、相手に対
して怒らないでいられる自分が好き…

…私はハッピーに生きたい。
他の人たちを勇気づけられるように生 きたい…

—ジョン・タケット君の言葉—

…人生はどう生きるかなんだ。長さは 重要じゃない…

…こんな病気で僕ってかわいそうって 思いながら一生悲しいパーティーを続けるのか、それと
も前へ進み人生を意味あるものにするのか。

僕は自分の人生を最大限に生きたい…

平成21年5月 「光明寺だより62号」より